

教育目標	人格の完成を目指して知・徳・体の調和を図り、平和的な国家及び社会の形成者として資質の向上に努め、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。 ① 自立の精神を養い、正しい判断力と実践力の育成を図る。 ② 豊かな情操の育成と基本的な生活習慣の確立を図る。 ③ 学習意欲を向上させ、生徒個々に応じた学力を伸長する。
------	---

重点目標	“学びのフロンティアへの挑戦” 伸びる力をより伸ばす市高教育の実践 ～グローバル人材育成プロジェクトの発展をめざして～ 市高の目指す5つの“学びのフロンティア” (1) グローバル人材の育成に向けた多様な取組の充実と推進 (2) 主体的・対話的で深い学びの上に立つ、探究力と自己教育力の育成 (3) 自己実現を目指し、より良く生きるためのキャリア教育の推進 (4) 地域を理解し、交流を通して地域に貢献できる人材の育成 (5) 小学校、中学校、特別支援学校等との学校間連携の強化(学びの継続性)
------	---

※ 自己評価のABCDについては、教員評価のAを5点、Bを4点、Cを2点、Dを1点とし、5点満点で平均、A:4.0以上 B:3.0~4.0 C:2.0~3.0 D:1.0~2.0と表示している

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	(1学年) ・自ら学ぶ意識付けをさせ、学習習慣の定着と学習方法を確立させる。 ・進路選択に向けて主体的に行動させる。  (2学年) ・進路目標を具体化させ、主体的に学習に取り組ませる。  (3学年) ・最上級生としての自覚を持ち、下級生の手本となる学校生活を送らせる。 ・小テストや補習等を効果的に実施し、基礎学力の向上を図る。 ・学校以外での学習時間を増やし質を高める。 ・生徒の希望進路の実現を図る。	(1学年) ・朝学習、補習を実施することやスタディサプリを定期的に勤めることで基礎学力の定着を図る。週末課題などを利用し、最低限の家庭学習習慣をつけさせる。 ・進路講演会や面談、通信などを用いて進路選択の考え方や調べ方を身につけさせる。  (2学年) ・進路講演会・出張講座・面談などを行い、進路意識を向上させる。 ・模試の事前事後指導を行うことで、学力を向上させる。 ・朝の小テスト(週3回)や週末課題の継続的な実施により、学習習慣の定着、学力の向上を図る。 ・スタディーサポートを活用し、生徒の学習状況を把握し面談等で学習意識を向上させる。  (3学年) ・小テストや補習などを有効に活用し、学力の定着を図る。 ・家庭での学習時間を増やし、質を高める。 ・模試の事前事後指導を行うことで、学力を向上させる。 ・面談など通してきめ細やかな指導を行い、生徒や保護者に働きかけ、希望進路の実現に向けて、タイムリーな情報を発信していく。	(1学年) ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計で計60%以上、Dの割合を20%以下(できれば10%以下)にする。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計で80%以上にする。  (2学年) ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合を昨年引き続きAB合計で80%以上にする。 ・「家庭での学習時間の平均を60分以上確保していますか」を60%以上にする。  (3学年) ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合をAB合計80%にする。 ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計80%以上にする。 ・生徒アンケート「自分の将来について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計90%以上にする。	(1学年) ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計で計60%以上、Dの割合を20%以下(できれば10%以下)にする。 →AB合計39.5%、Dが23%と目標を達成出来なかった。自宅学習の大切さの働きかけは頻繁に行ったものの響いておらず、1学年からの学習習慣定着は本校の引き続きの課題であると感じる。学校の学習で多くを完了している等のプラスの要因による結果であれば喜ばしいが、現状その段階にはないと感じている。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか。」の割合をAB合計で80%以上にする。 →85.7%と目標を達成できた。小テストの取り組みや、補習への参加意識は高いと感じる。一方で与えられたものではない「自らの学習」への課題は大きいと感じている。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計で80%以上にする。 →80.3%とぎりぎりではあるが目標を達成できた。生徒によって差が大きいと感じるものの、早いうちから進路を考えさせる意識付けは出来たと感じる。これがプレッシャーのかけ過ぎにならないように気をつける必要はあるが、継続していきたい。  (2学年) ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合AB合計86.6%という結果なり、目標を達成することができた。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合AB合計72.3%となり、目標を達成することができなかった。 ・「家庭での学習時間の平均を60分以上確保していますか」の割合は45.1%となり、目標を達成する事ができなかった。 2学年という中堅学年という意識が、まだ時間があると認識してしまっている生徒もいると感じている。進路実現に向けて取り組む者とそうでない者との温度差があり、また、進路選択による取り組みの違いもある。家庭学習の時間は、塾などの外部機関での学習時間が含まれているか定かではない部分もあるかもしれない。小テストへの取り組みもクラスによって差がみえてしまった。小テストの意義を今一度、教師側から指導し、一生懸命取り組む姿勢を大切にしていきたい。  (3学年) ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合をAB合計80%にする。 →82.7%で達成できた。 ・生徒アンケート「家庭での学習時間は平日に60分以上確保していますか」の割合をAB合計80%以上にする。 →大学進学希望者が80%を超えるなか74.3%と達成できなかった。 ・生徒アンケート「自分の将来について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計90%以上にする。 →3学年であることから99%と達成できた。 家庭での学習時間に関しては二極化していると思われる。難関大を目指す生徒は家庭学習時間をしっかりと確保している。それでも進路保障に関しては、進路指導部・担任・学年によるタイムリーな情報発信・指導によりほぼできてきている。これは少子化が進み、学習量が少なくとも合格できる大学が増加しているからであろう。また、生徒は駅から近い総合大学を選ぶ傾向が顕著であり、教師が一般に思う大学選びの基準と生徒の嗜好とは異なってきていることも背景にあるだろう。	A 4.1 A:31.3% B:60.4% C:6.3% D:2.1%	
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	(教務部) ・観点別評価の検討 ・校務支援システムの活用内容の拡大 ・BYODの充実  (進路指導部) ・進路実現のために必要な力の伸長が図られるように指導・支援を行う。 ・新学習指導要領導入に向けた準備を進める。 ・校務支援システムの研究を行う。	(教務部) ・観点別評価について各教科にて再検討してもらい、生徒に提示する。 ・校務支援システムの研究を行い、まだ利用できていない内容を利用できるようにする。 ・新たなコンテンツやアプリケーションを研究する。  (進路指導部) ・各学年との連携を密にし、情報交換に努め、要望に応じた適切な情報提供を行う。 ・大学入試における情報収集・情報提供を行う。 ・校務支援システムの研究を行い、調査書に加え、入試結果入力の活用役に活用されるか検討する。 ・放課後や長期休業中の補習を充実させる。 ・進路指導部通信を発行し、自己のあり方を見つめる、学習への意欲の向上をはかる機会を作る。	(教務部) ・観点別評価規準及び評価方法をシラバスに掲載する。 ・校務支援システムの活用により業務改善につなげる。 ・生徒のタブレット端末の利用頻度を向上させる。  (進路指導部) ・各学年2回以上の進路講演会・ガイダンスを行う。 ・職員及び当該学年生徒へ大学入試等に関する説明会を年間複数回行う。 ・校務支援システムの活用方法を考える。 ・担任の先生に各学期1回以上面談を実施してもらう。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合をAB合計で80%以上にする。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合をAB合計で85%以上にする。 ・生徒アンケート「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合をAB合計で85%以上にする。	(教務部) 成果 ・観点別評価が大きな混乱なく実施できている。 ・観点別評価規準及び評価方法をシラバスに掲載し、生徒に提示できた。 ・生徒のタブレット端末の利用頻度は各教科の協力のもと向上した。 課題 ・校務支援システムへの欠時入力など、運用に関する仕組みを再検討する。 ・BYODの総括を行い、新たなプラットホームなどの検討を行う。  (進路指導部) ・各学年2回以上の進路講演会・ガイダンスを行い、生徒の進路に対する意識向上につなげることができた。 ・職員及び当該学年生徒へ大学入試等に関する説明会を数回行ったが、周知が不十分であったので、来年度は改善したい。 ・校務支援システムの活用について学年と共有できた。 ・担任による面談は十分に行われた。 ・生徒アンケート「小テストや学習会、補習は効果的に実施されていると思いますか」の割合はAB合計で78.8%で80%以上には満たなかった。 ・生徒アンケート「自分の将来の進路について、調べたり考えたりしていますか」の割合はAB合計で86.9%で85%以上にできた。 ・生徒アンケート「学校の進路指導に関する体制について、満足していますか」の割合はAB合計で80.8%で85%以上には満たなかった。 3つのアンケート結果から、学校の進路への取り組みをもっと周知させる必要がある。

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	<p>「豊かな心」の育成</p> <p>①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施</p>	<p>(生徒指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>安全指導の徹底を図る。</li> <li>問題行動・不良行為を未然に防ぐ。</li> <li>生徒会行事の充実を図る。</li> </ul> <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育を通し現代社会の様々な問題を考察し、人権意識を磨いて、他者の人権も配慮できる人間形成を目指す。</li> <li>他者への敬意を持つことで様々な人間が共生できる多様性社会の実現に向けて努力する。</li> </ul> <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門家による時代に即し、発達段階に応じたわかりやすい講演の実施。</li> <li>相手を思いやることの大切さを生徒間で充実するために、保健委員会が中心となり、アサーティブな人間関係作りを推進するよう働きかける。</li> </ul>	<p>(生徒指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> <li>生徒アンケート「校内の環境美化活動は適切に行われていると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> <li>生徒アンケート「キチンと挨拶できていますか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> <li>生徒アンケート「交通ルールやマナーは守られていますか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> <li>生徒アンケート「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> <li>生徒アンケート「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」の割合をAB合計90%以上にする。</li> </ul> <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から人権について生徒と教員が共に考えていく姿勢をもつ。</li> <li>グローバル社会をふまえた多様性の重視を確認していく。</li> <li>授業以外に人権標語の募集、デジタルサイネージでの配信、ポスターの掲示、通信、冊子、カードの配布等、人権啓発に努める。</li> </ul>	<p>A 4.3</p> <p>A:41.7% B:54.2% C:4.2% D:0.0%</p>	<p>(生徒指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「朝や授業において遅刻していませんか」について、AB合計86.5%であった。</li> <li>生徒アンケート「校内の環境美化活動は適切に行われていると思いますか」について、AB合計79.8%であった。</li> <li>生徒アンケート「キチンと挨拶できていますか」について、AB合計94.1%であった。</li> <li>生徒アンケート「交通ルールやマナーは守られていますか」について、AB合計96.2%であった。</li> <li>生徒アンケート「服装・頭髪等の学校生活でのルールは守られていますか」について、AB合計97.3%であった。</li> <li>引き続き、思いやりの心と自ら規範意識を持つ人間性豊かな人づくりを進めたい。教員主導でなく生徒自身で市高のルールを守っているよう、ルールの押しつけてなく、自らの高校生活をよくするためのルールとして考えさせたい。</li> </ul> <p>・生徒アンケート「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていると思いますか」について、AB合計76.8%であった。</p> <p>○ますます多様化する複雑な問題を抱えた生徒に対する相談体制の更なる充実が必要である。外部機関との積極的な連携を図っていく。</p> <p>・生徒アンケート「生徒会行事や学校行事が充実していると思いますか」について、AB合計87.5%であった。</p> <p>○生徒会行事については、生徒会を中心に生徒主体の行事運営を拡充させた。引き続き、企画・運営・費用を工夫しつつ取り組みたい。</p> <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「男女共同参画社会」や「多文化理解」についての講演会を通して、興味関心をもつことができた。</li> <li>保健委員会を中心に受け身ではなく、明確なPDCA計画を実施し生徒主体の人権教育を行うことができた。次年度は年間を通してこのような生徒主体で行える人権教育についての活動を引き続き考えていきたい。</li> <li>次年度以降、様々な活動の中で、人権に対する考え方について、個人や学年間で差が出ないようにまとめていかなければならないと強く感じた。</li> <li>デジタルサイネージでの配信、ポスターの掲示、通信、冊子、カードの配布等、小さな活動ではあるが、人権啓発につながることに今後も努めていく必要があると考える。</li> </ul>
		<p>「健やかな体」の育成</p> <p>①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進</p>	<p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の生活習慣や心身の状態に気づき、健康的な生活習慣の大切さを知り、健康問題を自ら解決していく態度を育てる。</li> <li>食生活に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。</li> </ul> <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会の自主的な活動を援助し、生徒の心と体の健康に関する興味・関心を高める。</li> <li>保健委員の指導や保健だよりを発行し、健康に関する意識の啓発に努める。</li> <li>感染症予防への対応を図る。</li> <li>栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得する。</li> </ul>	<p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭・体育祭等の学校行事・保健行事ごとの保健委員会の活動を促す。</li> <li>手洗い場所へ石けんを配置し、手洗い・うがいの呼びかけ、手洗いの意識を高めるなど、感染症予防のための環境整備に努める。</li> <li>発達段階に応じた食生活を理解し、健康で安全に営む力をつける。</li> </ul>	<p>A 4.4</p> <p>A:43.8% B:54.2% C:2.1% D:0.0%</p>	<p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会活動として保健行事（健康診断、内科検診、体育祭）では、積極的に準備、片付け、対応などの活動を行いスムーズに行事が進んだ。</li> <li>保健委員に本校職員によるエビベン講習会、運動部を中心に心肺蘇生法講習会、専門家より熱中症予防講演会を実施し、危機管理に対応できる力を養うことができた。</li> <li>感染対策について引き続き注意喚起し、さらに足つきマットを教室出入り口に敷くことによって感染対策を行った。また、サーキュレーターを教室に設置し換気の徹底を行った。</li> <li>職員研修では、特別講師より心肺蘇生法講習会を実施し、ほぼ全職員が受講し救急対応について再確認できた。救急対応の概要だけでなく体のしくみを詳細に聞くことができ、より理解が深まる研修会であった。</li> <li>科目「家庭基礎」の授業の中で栄養、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得した。</li> </ul>
		<p>「特色化・活性化」の推進</p> <p>①特色化・活性化の推進</p>	<p>(総合的な探究委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動の充実</li> </ul> <p>(総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HP、学校説明会などを活用し、学校の情報を保護者や地域に発信する。</li> </ul> <p>(GCコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する社会に対応するため、高い英語力の育成のみならず柔軟性やチャレンジ精神を育む。</li> <li>AIが急速に進化の中で、自らの考えを適切に伝えるコミュニケーション能力を伸ばす。</li> </ul> <p>(商業科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びによるキャリア教育の充実を図り、正しい職業観・勤労観を身に付けさせる。</li> <li>教科間連携、産官学連携による教育活動を充実させる。</li> </ul>	<p>(総合的な探究委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は、スタディサブリの探究講座にて自分を見つめる時間を作り、「ソーシャルチェンジ（自ら課題を発見し、その解決を探索するアクティブ・ラーニング型プログラム）」を取り入れ、主体性・創造性、協同する力を養う。</li> <li>2年生は、「コーポレートアクセス（「企業とともに未来をつくる」をコンセプトに、教室で生徒たちが企業へのインターンシップを体験するプログラム）」を取り入れ、働くことの意義や経済活動について学びながら、自らの大切にしたいものを探求し、自分と世界の見方が変わるような学びの力を養う。</li> </ul> <p>(総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生アンケートに基づき、学校説明会及びオープンハイスクールを周知するための広報活動に取り組む。</li> <li>HPの内容充実し更新回数を増やす。</li> </ul> <p>(GCコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GC Camp、GC Cafe等の英語に関する取組を通して、より実用的な英語力を育成するとともに、海外の高校生とのオンライン交流により多文化を理解しようとする柔軟な姿勢を育む。</li> <li>Global Studiesにおいて世界を舞台に活躍する講師を招き、生徒の視野を広げるとともに、キャリアプランニング能力を育成する。</li> <li>専門家等の外部機関と連携しながら、国際的・学際的な課題を解決する探究学習に取り組む、思考力や表現力を育む。</li> </ul> <p>(商業科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商店経営実習やオープン・ハイスクールなどの各種行事を生徒が企画し、運営する。高大連携や外部講師を招いて講演会を実施し、専門的な学びを深める。</li> <li>他教科や伊丹市および民間企業と連携した教育活動を行う。</li> </ul>	<p>(総合的な探究委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のできることを知る。</li> <li>社会に目を向けることができる。</li> <li>仲間と協同して、課題克服に努めることができる。</li> </ul> <p>(総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPの内容更新のスピード化と視覚的向上を図る。</li> <li>学校説明会への参加者を増加させる。</li> <li>学校説明会参加者アンケートの満足度を90%以上にする。</li> </ul> <p>(GCコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時までに英検2級取得率80%以上を目指す。</li> <li>5団体以上の外部機関と連携する。</li> <li>独自の取組であるGCジョイント、GC Camp、GC Seminarにおける生徒の満足度を90%にする。</li> <li>他校の研究授業、研修への職員の参加回数を増やす。</li> </ul> <p>(商業科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3年生が主体となり7月、8月および10月に商店経営実習を実施する、10月の商業科オープン・ハイスクールでは、生徒が体験授業等の内容について企画・運営する（主に2年生）。</li> <li>8月の学校説明会で商業科のPR及び販売実習を行い、10月の普通科オープン・ハイスクールで販売実習を行う（主に1年生）。</li> <li>教科間および産官学連携事業による商品開発を行う</li> </ul>	<p>A 4.5</p> <p>A:54.2% B:41.7% C:4.2% D:0.0%</p>

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題・改善策
主要施策	教育相談・支援体制の充実 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	(保健部) ・生徒の内面的な理解を深めるため、健康相談および教育相談を充実させる	(保健部) ・心の健康面に不安を抱えた生徒を早期発見し、関係分掌と連携し対策に努める。 ・スクールカウンセラーによる教育相談をより充実したものにする。	(保健部) ・日常的に生徒の健康管理に努め、問題生徒のケアに努める。 ・保健部において生徒状況の十分な情報交換に努める。場合によっては、特別支援委員会のケース会議を行い関係機関との連携や職員の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラー・学年・担任・養護教諭と連携した協力体制を築き、職員全体での対応を図る。	A 4.4 A:37.5% B:62.5% C:0.0% D:0.0%	(保健部) ・時間割の中に拡大保健部会を入れることによって、学年と保健室が密に情報交換を行うことができた。また、生徒指導部とも連携し情報交換を行うことができたことで、昨年度より評価が高い結果であると考えている。 ・カウンセリング前に担任の先生に記入してもらう資料により、カウンセリングが円滑に進んでいる。少し手間はかかるが、引き続きお願いしたいと思う。 ・各学年団の先生の生徒に対する対応は十分できていると考えられるが、家庭での悩みを抱えた生徒など悩みが複雑になってきているため、より専門性の高いスクールカウンセラーの人数や相談時間を今後は増やし、専門機関との連携がスムーズにできることが今後の課題である。
	特別支援教育の推進 ②特別支援教育の充実	(保健部) ・個々に応じた特別な教育的配慮を必要とした生徒の把握、共通理解を円滑に行う。	(保健部) ・入学時出身中学校との連携を図り情報を得る。 ・特別支援教育委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・校内情報共有シートを作成し、支援対象生徒の情報共有と支援計画を行う。	(保健部) ・特性を踏まえた十分な個別の支援教育が受けられるようにする。 ・個別の教育支援計画は、必要に応じて家庭や関係機関の情報共有を行う。	A 4.2 A:33.3% B:60.4% C:6.3% D:0.0%	(保健部) ・保健部会、特別支援教育委員会を通して、日常生活に困難が生じている生徒に対する配慮について、共通理解を行った。 ・サポートファイルや療育手帳を有した生徒、保護者とは学期ごとに連絡を取り合い情報共有を行った。 ・職員に対して特別支援コーディネーターの役割、通級についての情報提供を行い理解を促した。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・教員資質向上指標や教職員研修計画等を踏まえた積極的な研修参加により資質向上を目指す。	・教職員としての基本姿勢を確立する。 ・専門性と実践的指導力の向上をめざす。 ・指導方法の工夫・改善を図り、魅力ある授業を展開する。	・教職員研修計画に基づく研修等とおして、最新の知識・技能を身につけるとともに、教員一人一人が自らの教職生活を振り返り、新たな思いで生徒たちと向き合う姿勢を持つ。	A 4.4 A:39.6% B:58.3% C:2.1% D:0.0%	・ICTを活用することで「個別最適化」な学びをおおむね推進することができた。これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けて、生徒一人一人の興味や関心、発達段階や学習上の課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に今後も継続して取り組む。 ・心に不安を抱えた生徒が多い中、おおむね1人1人の生徒に対応できた。心の通い合う学級経営を基盤に、生徒会活動や学校行事等の集団活動を通して、生徒の望ましい人間関係の形成、自主的・実践的な態度、健全な生活態度の育成に今後も努める。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	(総務部) ・保護者・地域住民、有識者などが学校運営に参画することで、「開かれた学校づくり」を実現する	(総務部) ①学校教育目標の達成を目指すPDCAサイクルを構築する。 ②「地域学校協働活動」との一体的な推進を進める。	(総務部) ①授業参観等における現状把握をおこなう。学校評価やアンケート結果等の客観的なデータの活用する。 ②学校支援ボランティアとの効果的な連携を図る。	A 4.0 A:31.3% B:52.1% C:16.7% D:0.0%	(総務部) ①コミュニティ・スクールの運営委員会において授業参観週間の内容を見て頂き現状の把握し今後の課題について話し合った。学校評価やアンケート結果等の客観的なデータを活用し、今後の課題について話し合った。 ②近隣小学校において土曜日講座やボランティア活動に積極的に参加した。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①災害時における危険を認識し、日頃から、家庭における防災対策や地域の行事等へ積極的に関わり、状況に応じて自ら考え安全な行動ができるようにする ⑤働きやすい職場環境作りを進める。	①危機管理対応マニュアルの作成 ・危機意識・危機管理体制の構築 ⑤勤務時間の適正化を図る。	①今年度の実施計画の作成と検証 ・災害時に主体的に行動できるためのシミュレーションを行う。 ⑤ ・毎月の勤務時間の平均時間を昨年度よりも少なくする。	A 4.2 A:29.2% B:64.6% C:6.3% D:0.0%	(総務部) ① ・防災訓練において、各自がとるべき行動を考えた上で速やかに避難することができた。 ・防災訓練の必要性を感じられる出来事が続いたため、これまで以上に真剣に訓練を実施していきたい。 ⑤ ・毎月の勤務時間の平均時間は、例年より減少した。昨年よりも業務改善が進んだことが原因であると考えている。今後も継続して勤務時間の適正化のため、業務改善を行っていききたい。また、超過勤務の教員を減らす。